

早稲田摂陵高校ウィンドバンド クリスマスコンサート(12月24日)



(一社)みずほの家主催のクリスマスコンサートが、田園交響ホールで開催されました。市内中学校・高校との合同演奏もあり、参加した生徒は「有名な方たちと演奏ができてうれしかった」と話されました。明るく楽しい演奏に、会場は笑顔であふれました。

東雲高校生A5牛育て販売(12月15日)



「第105回兵庫県畜産共進会」で優良賞を獲得した篠山東雲高等学校の肉牛が、味土里館でA5ランクの牛肉として販売されました。初日には高校生も接客。西嶋一惺さんは「一生懸命育てた牛が売れてうれしい。やりがいを感じた」と笑顔で話されました。



市内高校の魅力を知って「夢プラン」(12月15日)

市内高校生が、中学2年生に向けて高校の魅力を紹介するキャリア形成事業「夢プラン」が開催されました。高校生たちは、パワーポイントや動画をもとに説明。「履歴書が真っ黒になるくらい資格が取れます!」「農業だけかと思っていただけ、幅広い勉強ができた」「中学より宿題は少ないけれど、自分から挑戦することが増えた」など、実際に高校に通っている高校生だからこそ分かる等身大の魅力を中学生に伝えました。

迎春モニュメントの設置(12月27日～1月14日)



年末から年始にかけて、篠山まちなみ保存会による重伝建選定20周年を記念した迎春モニュメントが篠山城跡周辺に登場し、夜を美しく照らしました。迎春モニュメントの製作にあたってはSDGsに配慮され、また篠山小の児童たちが行燈の絵を担当されました。伝建制度や伝建事業について、市民の皆さんに関心を持っていただけるよう製作されたとのこと。点灯式には篠山小の児童を迎え、児童のカウントダウンによってモニュメントが点灯しました。

中森俊介選手が故郷に凱旋(12月27日)

丹波篠山ふるさと大使を務めるプロ野球・千葉ロッテマリーンズの中森俊介選手の成績報告会とトークイベント(市・中森俊介選手後援会主催)が丹波篠山市民センターで行われました。報告会には市民の皆さんやファン約220人が参加。中森選手は、「投手中森 度胸の良さで 打者を打ち取るストレート」との歌詞によるデカンショ節で迎えられると、子どもたちから花束や寄せ書きが贈られました。その後、今季の勇姿が映像で紹介された後、市民の皆さんらに今季の成績を報告するとともに、来季の抱負については「本格的に先発をめざしたい」と語りました。



光月知津子さんからの寄付(12月8日)



市内で着付け教室をされている光月知津子さんから、市へ30万円のふるさと応援寄付金をいただきました。光月さんは着付けのみならず、パッチワークの個展を開催するなど幅広く活躍されています。「市に大変思い入れがあり、主に農業振興に使ってほしい」と話されました。

隣接消防本部と山岳救助訓練(10月23日)



櫃ヶ嶽(宮代)で、丹波篠山市消防本部と京都中部広域消防組合山岳救助隊との合同山岳救助訓練が行われました。隣接地域との円滑な連携、隊員スキル向上を目的とし、GPSを活用した捜索や低所からの引き揚げ救助訓練、搬送訓練を実施。訓練後は情報交換を実施して関係性を築き、双方が知識と技術を高め合いました。

自衛隊による空挺式体力運動を体験(12月15日)



自衛隊兵庫地方協力本部柏原地域事務所の自衛官の皆さんが広報活動の一環として篠山産業高校を訪問し、機械工学科2年生33人に空挺式体力向上運動を指導。生徒たちはさまざまな筋力トレーニングに声を出し、励まし合いながら、楽しく取り組んでいました。

160年ぶりに復活! 黒豆奉納式(12月13日)



丹波篠山藩が1846年と56年に江戸幕府に黒豆を献上していた習わしが約160年ぶりに復活。フジッコ(株)や(株)小田垣商店、(一社)丹波篠山市観光協会が実行委員会を組織し、徳川家康・吉宗が祭られた上野東照宮(東京)で、今年収穫された丹波篠山の黒豆を奉納しました。

篠山中学校サッカー部が県新人大会で準優勝(12月16日)

県中学校サッカー新人大会に出場した篠山中学校サッカー部が創部初の準優勝を飾りました。12月9日・10日に芦屋学園グラウンドで行われた1、2回戦を2-0(VS龍野西・御津・新宮合同チーム)2-1(VS山陽中)で勝利した篠山中サッカー部。16日にみきぼうパークひょうご(三木市)で行われた準決勝では、関西学院と対戦しました。序盤に2点を失点する苦しい展開でしたが、後半土壇場で同点に追いつき、PK戦で勝利しました。迎えた決勝戦は丹有予選の決勝大会で敗れた三田学園戦。篠山中は立て続けに失点を許し0-2とリードされるもすぐにPKを決めて1点差に。その後、相手ゴールに攻め込むもゴールは奪えず、1-2で試合終了。惜しくも敗れはしましたが、生徒たちは最後まで一生懸命プレーし、篠山中に新しい歴史を作りました。

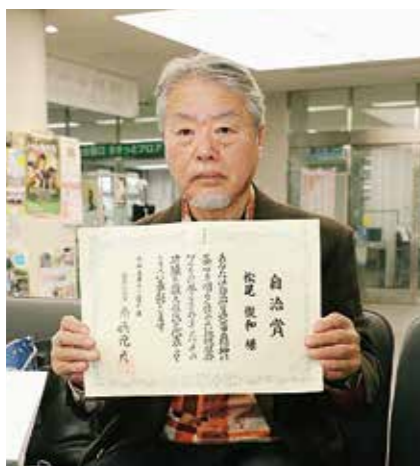


しゅうとうゆきみ
首藤幸美さん(神戸市東灘区)
元特別養護老人ホーム施設長

介護老人福祉施設「やまゆりの里」で、利用者の介護支援や生活支援など、高齢者福祉に尽くしてこられた首藤幸美さん。福住地区に生まれ育ち、結婚後に神戸に移り住まわれました。その後、親が立ち上げた施設を手伝い始め、1990年に副施設長、1997年からは施設長を務め、母の教えである「心に寄り添う介護」を胸に刻み、利用者の人生やライフスタイルを尊重し、「生きていてよかったと思ってもらえる施設づくり」に取り組んでこられました。現在、統括施設長として、丹波篠山との2拠点で生活されている首藤さん。「約30年間、地域の皆さんに支えていただいたことに本当に感謝しています。今後も私にできることを精いっぱい取り組み、利用者の皆さんが『やまゆりの里』でよかったなあと思える施設づくりに努めていきたいと思っています」と、にっこり笑顔で話されました。

瑞宝双光章(社会福祉功労)

栄光輝く



まつおとしかず
松尾俊和さん
篠山音楽協会会長

自治の精神に基づき、明るく住みよい地域社会づくりに貢献し、その功績が優れた個人に送る賞

約30年にわたり篠山音楽協会の役員を務め、音楽協会加盟団体の発表の場である篠山音楽祭や、音楽大学の卒業生による発表会・新人演奏会の開催に取り組むなど、団体の運営に尽力されてきた松尾俊和さん。2020年に音楽協会の会長に就任。就任の翌年にはコロナ禍に見舞われ、イベントはすべて中止となりました。「当時は悔しい気持ちでいっぱいでしたが、2年ぶりに音楽祭を開催できたときは、本当にうれしかったです」と振り返られます。「来年の音楽祭が50回目の節目の年となるので、盛大に開催できればと考えています。今後も、丹波篠山の音楽の火を消すことなく、まい進していきたい」と、その熱い思いを話されました。

兵庫県自治賞



はたちのつどい(1月7日)

丹波篠山はたちのつどいが田園交響ホールで開かれ、今年度20歳を迎える245人の参加者が集まりました。

式典では、市民や市職員の有志らが吉本新喜劇風の寸劇やダンスを披露し、会場は笑いに包まれました。また、市民ミュージカルの出演者たちも駆け付け、「エスメラルダ」役を演じる榎谷彩愛さんは振袖姿でミュージカルのワンシーンを演じました。

式典終了後、参加者らは家族や友達から花束をもらったり、友人同士で記念撮影をしたりして新たな門出を祝いました。

(株)みなと銀行からの寄付(1月11日)



(株)みなと銀行から70万円の寄付をいただきました。市が進めるワクワク環境みらい都市の取り組みに賛同する企業への融資商品「みなと地域貢献寄付型ファンド『丹波篠山市とともに』」の金利の一部で、賛同企業14社に感謝状を贈呈しました。

消防出初式(1月7日)



丹波篠山市消防出初式が田園交響ホールで行われ、市内21分団の団員ら約800人が参加しました。式典後には篠山城跡三の丸広場で、各分団による一斉放水が行われ、筒先から水が勢いよく噴射されると、団員たちは市民の生命と財産を守る決意を新たにしていました。

